

と き：平成17年2月22日(火)      ところ：東京大学山上会館

## 第44回定時総会資料（抜粋-1）

平成16年度事業報告

平成16年度決算報告

**SICE**<sup>®</sup>

社団法人 計測自動制御学会

## 2004（平成16）年度事業報告

### 概況

#### （一般事項）

2004年度は、国際化、IT化、理事会構成の見直しに対応して作成された計画に基づき、具体的な活動を開始した年であった。

##### 1. 新しい理事会構成

平成15年度に見直した会長・理事候補者の選出方法に従って、現理事会で策定したSICE活動方針をもとに候補者を公募し、選出を行った。新しく設置された部門担当理事、支部担当理事およびタスクフォース担当理事を含む新理事会組織が、平成17年度から機能的に活動されることを期待する。

##### 2. 国際化対応

8月に北海道工業大学で行われたAnnual Conference 2004では、はじめてすべての論文を完全英語化した。2005年に岡山で開催されるAnnual Conference 2005の準備活動を行った。また、2006年度に韓国ICASEとの連携により開催するAnnual Conference 2006に向けた準備も進められ、国際化の順調な進展が図られた。

##### 3. 横幹連合活動支援

横断型基幹科学技術研究団体連合（略称横幹連合）の活動に、SICEとして積極的な支援活動を行った。

##### 4. 将来ビジョンと学会運営モデルの検討

平成15年度の拡大理事会での審議結果にもとづいて、SICE将来ビジョンの策定に関して企画委員会にWGを設置した。その成果として、SICEテクノロジービジョン・ワークショップ「SICEの明日を創る」を開催した。SICEの社会的使命として「計測制御は知の原型であり、多様性を享受しなければならない21世紀を知の偏在によって支えることである」を提起し、過去10年から未来10年にわたる環境動向をふまえて取り組むべき課題を設定した。また、会員サービスの向上と、学会や部門・支部の運営効率の改善を目標として、進歩するIT技術を活用した新しい学会運営モデルを策定した。

##### 5. 教育認定事業

「教育・認定委員会」を設置し、会員に対する教育・認定事業を行うために、JABEE WG、計測制御エンジニア WG、CPD制度 WG、PDE協議会対応 WG の4つのWGを設置し、事業活動を実施した。

##### 6. 公益法人の新制度移行準備

2003年度の監督官庁による公益法人実地検査における指摘事項について、特に事業規模と内部留保水準を適正化すべく、支部と部門への協力依頼を行い、ある程度の成果が得られた。しかし、なお指導基準を満足する水準まではいたっておらず、平成17年度もさらなるフォローが必要である。

##### 7. 会員数の推移

昨年末の会員数を一昨年と比較すると表のようになり、正会員と賛助会員の減少が続いている。減少傾向への対策として、部門および支部において、特に学生と賛助会員への特別なサービスを実施したが、SICEの活動そのものをより魅力的にすることが必要であり、平成17年度も継続的な努力が望まれる。

	平成16年末現在	平成15年末現在	増減
名誉会員	23名	21名	2名
正会員	6,760名	6,942名	182名
学生会員	678名	771名	93名
賛助会員	215社 267口	237社 290口	22社 23口

#### （1）企画委員会

##### 1. IT時代の学会運営モデルの構築

SICEの安定的発展を確保するためには、会員に役立つ学会である必要があり、その観点からIT時代の開かれた学会を目指して、横断型基幹技術である計測・制御・システムの知の共有をはかる新しい学会モデル（ミッションおよびタスク）を確立すること、IT時代の学会モデルは現状の学会業務をそのままIT化することではなく、学会業務をIT環境に合わせて変革し、学会のミッションおよびタスクを実現するものであるとの提言を理事会に対して行った。そして、具体的なデータベース構築、会員ポータルサイト、論文投稿・査読等のためのシステム構築に関する費用対効果の検討を進めた。

##### 2. SICEテクノロジービジョンの立案

計測・制御という学問が果たしてきた役割を歴史的に総括し、会員数の減少が続いているという事実を踏まえ、将来のSICEの存在意

義とブランド力向上を目指したテクノロジービジョンの確立のための検討を行った。その過程で、広範な会員層と産官の有識者を招いたワークショップ「SICEの明日を創る」を開催し、脳科学、バイオ、ナノなどのSICEにとつての未踏分野開拓、産業界の中心が自動車産業に移っている等の現状に合わせた活動、福祉や社会基盤の分野へのSI技術による展開などについて、具体的進め方を含め、理事会に提言を行った。

### 3. 英文論文誌の発刊

英文誌の発刊に関しては、IT時代の学会運営モデルの検討とも関連するため、その推移を見極めつつ、検討を継続することとした。

### 4. 学会連合の推進

横断型基幹科学技術研究団体連合に関しては従来と同様に、事務局へのサポートはもとより、学会連合の諸活動にも積極的に参加し、活動を行った。

### 5. 理事の所掌業務の明確化

2005年度から新しい理事会構成が実行に移される。そこではいわゆる無任所理事は無くなり、全理事が明確な業務を持つことになるが、そのうちタスクフォース担当理事6名の所掌を教育認定、学会連合、会員広報、IT化、将来ビジョン、学会運営モデルとすることとし、理事会の承認のもとに一部を2004年度より試行的に実施した。

## (2) 会員・広報委員会

### 1. SICEビジョン立案活動との連携

SICEの会員制度のあり方、ブランド力の向上施策などを含むSICE将来ビジョンについて、企画委員会WGで具体的な検討がなされており、これに対する意見反映を図った。

### 2. 学生会員懇談会

SICE Annual Conference 2004において8月4日に学生会員懇談会を開催した。25名以上の学生会員が参加し、理事会メンバーとの懇親を深めた。

### 3. 会員・広報委員会主催チュートリアル

「計測・制御・システムの仕事は面白い」をテーマに、先輩研究者・技術者が学生および若手社会人に語るチュートリアルを12月15日東工大で開催、57名の参加があった。

## (3) 学会賞委員会

### 1. 論文賞等の選考

論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞それぞれの候補を選考し、理事会に報告した。この選考にあたっては、部門制度に対応した計測、制御、システム情報、システムインテグレーション、産業応用の5分野のカテゴリー（対象案件によっては複数のカテゴリー）で評価した。

### 2. SICE Annual Conference Awardの受賞者決定と表彰

Annual Conference Award運用規則に基づき、選考委員会を組織し（委員長 東工大・伊藤宏司）、International部門、および、Young Author's部門の受賞者を決定、8月6日のClosing Sessionで表彰し理事会に報告した。

### 3. 学術奨励賞の選考

学術奨励賞候補の選考を行い1月理事会に報告した。

## (4) 部門協議会

部門制に移行して5年目を迎え、部門単位での活動が定着してきた。平成16年度は、更なる飛躍のため各部門の自由闊達な活動と独立性を重視しながら、部門協議会を運営した。学会内外への委員派遣や推薦、広報活動の充実と会員増を目指しての活動などを積極的に行った。各部門はそれぞれ活発に活動した。部会・調査研究会の活性化と部門大会の充実などによって事業収益は黒字基調となり、部門基金化を推進した。以下、項目ごとに報告する。

### 1. 学会内外への委員派遣や推薦

論文集委員会、産業論文委員会、会誌編集委員会等への委員派遣、ファナック論文賞の推薦論文決定、科研費審査委員候補者推薦等、他委員会への委員派遣や学会本部への依頼事項に対する実務作業を行った。また、北海道で開催されたSICE2004のオーガナイズドセッションに積極的に参画し、来年度岡山で開催予定のSICE2005プログラム委員会への委員推薦も行った。更には、横幹連合等からの依頼で、スペシャリストデータ、シナリオライターとしての候補者を部門において推薦した。

### 2. 広報活動の充実と会員増を目指しての活動

全部門においてホームページを持ち、それぞれの部門が部門広報委員を中心に活動を充実させており、SICE 会員増を目指した。特に、学生と賛助会員に向けてのサービスを行った。制御部門では、高校生に対して制御の基本と面白さを伝える講習会を企画し、基金を取り崩すことで参加費ばかりか交通費も無料で招待した。また、計測部門では、センシングフォーラムに、全ての賛助会員に無料招待状を配布した。さらに制御部門では、セミナー参加の取り扱いを改定し、学生会員については参加費の引き下げを、賛助会員には受講者枠の半数以下に限ってテキスト代のみにて参加できるようにした。SICE 会員の増加に向けて様々な試みを実施している。

### 3. 部門活動における学会冠賞と部門大会での表彰

部門活動において他学会等との協調事業や国際的な交流が活発になりつつある。そこで、一昨年度より SICE の冠を付けた賞を、システムインテグレーション部門のレスキュー工学部会が共催したロボカップ、レスキューロボットコンテスト部門賞の位置付けで設置した。本年度も表彰制度は学会活動の社会貢献や PR にも資するところが大きであると評価し、継続した。これとは別に各部門においては、部門大会の活性化を図り、その大会での優秀発表論文に部門表彰を行っている。

### 4. 部門基金化の推進

部門の活動は著しく活性化し、部門大会や講習会において黒字基調となっている。一昨年度より、学会本体と部門協議会との会計上の連結に従って 30% を超える繰越金を可能な限り抑制することとなり、各部門での努力の成果を制度的に保全する手立てが必要となった。そこで収益性の高い部門においては、繰越金の一部を部門で設定した基金に繰入れている。今年度は、今までに積み立てた基金の一部を取り崩して事業費に当てた。また、最終的に黒字となった部門は、部門のミッションの将来展開、開拓に関する調査および活動に資するために、基金の増額および新規基金の設立を図った。

### 5. 部門協議会活動

各部門独自の運営体制が設けられ、部会、調査研究会の他に部門ごとの運営戦略に応じた各種委員会が設置される体制が整ってきた。また、部門基金、部門表彰など部門内の規程もほぼ整備され、部門としての形が完成したと見ている。平成 16 年度は、年間 8 回の部門協議会を開催し、部門活動のあり方、事務局との業務の協調、部門間の調整等について協議した。いずれの会議でも諸制度や活動方針をめぐって活発な議論が展開された。また、学会内の各委員会への委員派遣、SICE2005 プログラム委員会への委員推薦、科研費審査委員候補者推薦、スペシャリストデータ、シナリオライターとしての候補者推薦をどのように部門に割り当てるかについても部門協議会において討議、決定した。

## (5) 国際委員会

計測・制御・システム情報分野におけるアジアの中核学会を目指すという中長期ビジョンのもとで、国際委員会は以下の活動を行った。

### 1. SICE Annual Conference

- ・ 2004 年は、初めてすべての論文を完全英語化して開催した。
- ・ Annual Conference 支援費を活用して、オーガナイズド・セッション(OS: 40 sessions, 182 papers)、海外著名研究者の招聘等を実施した。
- ・ 2005 年岡山で開催される SICE2005 の準備を進めている。
- ・ 2006 年に韓国の ICASE と共同で韓国にて開催する準備を進めている。

### 2. 国際研究集会の主催・共催

依頼された国際研究集会の主催、共催、技術主催 / 共催、協賛事項に関して審議・承認し、財政負担のある主催、共催について、計画案の審議を行った。

### 3. 海外学術団体との連携

SICE Annual Conference に対して、IEEE/IES、IEEE/RAS、IEEE/CSS、IEEE/SMC、Instrumentation, Systems, and Automation Society (ISA) より共催 (technically co-sponsored)、IEEE Japan Council、The Institute of Control, Automation and Systems Engineers、Chinese Automatic Control Society、China Instrument Society、IFAC Japan Council より協賛を得た。

### 4. 部門・部会との関係

部門協議会・部会との協議のもとで、SICE Annual Conference への積極的な参画を促し、多数の OS を提案した。

### 5. 台湾の CACS との間で交流協定を締結した。

### 6. IEEE/CSS に対し創立 50 周年を記念する Plaque を、IEEE/IES に対し IECON30 周年を記念する Plaque をそれぞれ贈呈した。

## (6) 事業委員会

### 1. 委員会と任務

事業委員会は非会員に対しての教育・啓発活動を行うことをミッションとして、従来からの活動を引き継ぎながら、新しい活動を企画・

実施していくこととした。

## 2. 活動報告

- 2.1 SICE Week 2004 Annual Conference 2004 に併せて北海道地区非会員を対象に無料の出前講演会を実施した。高校6校に於いてはSICE 元会長(3名)を派遣し計測制御に関する啓発を目的とした分かり易い講演を行った。企業4社に対しては各社希望に沿う技術課題についてSICE 第一線の講師(4名)による基調講演を実施し、高い評判を得た。この活動は地元有力紙の北海道新聞に8月4日と7日に掲載されSICE 貢献が広く認知された。
- 2.2 第47回自動制御連合講演会 日本機械学会が幹事学会となり、2004年11月26日(金)、27日(土)、千葉ホテルサンガーデンで開催された。実行委員長は野波健蔵先生(千葉大)、運営委員長は水越毅先生(埼玉大)の体制で実施された。SICE は主催学会であり運営委員として当講演会を支援した。発表件数280件、参加者400名超えの好評を博した。
- 2.3 SICE 標準・規格に関する委員会 SICE が事務局を担当するJIS 規格3件について引き続きの作業を行った。「用語」については見直しのためWG を編成することとした。
- 2.4 公募型時限調査研究会の推進 実質的な活動は部門協議会で行われているが、最先端分野の活動の場を会員に提供する目的で継続した。本年度5件が実施された。
- 2.5 新しい活動に向けて 今後のSICE が果たすべきミッションについて自由に議論を進めた。とくに若年非会員に対しての計測と制御に関する啓発手法を議論した。前出出前講演会、CPD ツールとしてのDVD 計測と制御(基礎編)の発売もこの発想から実行した。

## (7) 教育グループ

### 1. 委員会と任務

教育グループでは「教育・認定委員会」を組織し、会員に対する教育・認定事業を幅広く行うこととした。その中に下記4つのWG を設置し事業活動を具体的に実施した。

### 2. 活動報告

#### 2.1 JABEE WG

JABEE 産業諮問評議会・機械/電気分野審査委員会などに委員として参加し、積極的に提言を行うとともに、SICE 関連分野での受審に不利とならないように審査員養成(SICE 役員経験者などに対して)活動を積極的に推進した。

#### 2.2 計測制御エンジニア WG

計測制御エンジニア講座(2日間)を開催し会員の啓発を図り、計測制御エンジニア資格試験を実施した。また、学生対象の資格として初級計測制御エンジニア資格案をまとめた。これら活動を広く公知させるべくHP 改善を進めた。2006年学会DB 更新を睨んで、新・計測制御エンジニアHP を立上げる準備を行った。

#### 2.3 CPD 制度 WG

制度実施初年度のためポイント細則の改善/インセンティブ方法検討/日本技術士会との摺り合わせ/広報(会誌・HP・講習会場)/事務手続きルーティン化などを進めた。あわせて前述計測エンジニア講座をDVD 収録し、これをCPD 教材(基礎編)として8月Annual Conference 2004 にあわせて頒布開始した。また、ISA でのCAP(Certified Automation Professional)制度の調査・連携の模索を開始した。

#### 2.4 PDE 協議会対応 WG

本年継続し委員会へ出席・アンケート回答を行った。

## (8) 会誌編集委員会

SICE 会員への有用な学術・技術情報・学会情報の提供、会員間の意見交流を目的とし、会誌「計測と制御」を年12回発行した。また、会員・学生会員・賛助会員へのサービス向上と学会の活性化を目指した活動を計画・実施した。具体的な実施項目を以下に挙げる。

1. 編集委員会を年6回、泊り込み企画会議は6月に開催し、特集号企画についての議論を行い、翌1年分のテーマ案を作成した。
2. 8回の特集号、3回の特集号、1回の特別企画(43巻8月号)を発行した。特集号のテーマは、毎号異なるターゲットを想定したものとし、会員のさまざまなニーズに応えることをめざした。
3. さまざまな読者に毎号読みたい記事が1つはあることをめざし、リレー解説を2件開始した。
4. 部門を基礎とする学会の運用体制に対応して、特集号や解説記事の企画・運用を行う編集委員会の中の小委員会を部門対応に移行するよう体制の整備を行った。次年度より、計測・制御・システム情報・産業応用・SIの5小委員会の構成とする。

5. 産業論文集の認知度の向上と活性化のために、論文紹介および論文抄録を学会誌に掲載することとした。第44巻第2号より掲載開始の予定である。
6. 会員へのサービス向上の一環として、SICE 2004 の会場およびWeb上で会誌への期待・興味を持った記事などについて、アンケートを行った。回収81件であり、現在、集計および分析を行っている。
7. 賛助会員へのサービス向上のために、求人案内の会誌への掲載を企画した。次年度の求人時期に合わせた第44巻第3号に掲載予定。
8. 将来のSICEの若手会員となる学生会員のために、学生企画欄を新たに設置し、学生が企画する記事を掲載することとした。次年度中に掲載予定。
9. 学会/部門だより欄の依頼ルートの一元化、締め切り規定などを明確化し遅滞のない高品位の記事を確保するようにした。

### (9) 論文集委員会

論文集委員会は学術論文を定期的発行することが第1の使命である。これを達成するために、適切な査読者の選定、論文査読状況の管理などの定常的な業務を遂行し、当初計画どおり論文集を発行することができた。また、継続して論文特集号の企画・発行等、投稿論文を増やす努力を進めた。論文投稿数は低落傾向にあったのが下げ止まった状態になっているが、残念ながら上昇に転じるところまでは行っていないのが現状である。

論文集委員会の運営としては、昨年度から引き続き部門制に対応した運営を行なった。また、昨年からは論文集委員会をほぼ隔月としてその回数を減らし、その代わりに分野別の小委員会毎の査読者決定のための打合せや採録・返却の確認等をeメールを利用して行うことを継続し、作業の効率化を図った。この結果、全体としては、投稿論文を受け付けた後の採否決定までにかかる期間が短縮されている。さらに、最初の査読を1ヶ月、再査読を2週間と従来の半分の期間にし、投稿票のeメール化を進めた。

英語論文集に関しても、国際会議をベースとした特集号の発刊を行った。

論文集のIT化に関しても引き続き議論を行ない、将来の論文集に関する検討を行った。

### (10) 総務委員会

関連委員会、事務局などと連携して、主に下記業務を行った。

1. 文部科学省に昨年度の実施調査結果に対する措置状況について報告を行い概ね了承された。  
事業比率、内部留保について継続的な改善が必要であるため、支部と部門とに協力を依頼した。
2. 事務員の中途退社に対応して新規事務局職員の採用を行った。

### (11) 北海道支部

北海道支部が平成16年度に行った事業は以下の通りである。

- |                     |    |                      |
|---------------------|----|----------------------|
| 1. 支部学術講演会          | 1回 | (04.1.22 / 23)       |
| 2. 特別講演             | 1回 | (04.1.22)            |
| 3. システム科学研究会        | 2回 | (04.9.17 / 04.12.17) |
| 4. 講演会              |    |                      |
| 第1回 主催              |    | (04.2.27)            |
| 第2回 主催              |    | (04.7.28)            |
| 第3回 共催              |    | (04.9.6)             |
| 第4回 後援              |    | (04.11.12)           |
| 5. 協賛事業 ロボットトライアスロン | 2回 | (04.9.5 / 04.10.24)  |
| 6. 第41回総会           |    | (04.1.22)            |
| 7. 役員会              |    |                      |
| 第1回(評議員会)           |    | (04.1.22)            |
| 第2回(幹事会)            |    | (04.5.24)            |
| 第3回(幹事会)            |    | (04.8.17)            |
| 第4回(評議員会)           |    | (04.8.17)            |
| 第5回(幹事会)            |    | (04.12.1)            |
| 第6回(評議員会)           |    | (04.12.1)            |

## (12) 東北支部

### 1. 研究集会の開催

東北支部創設以来、脈々と続いている口頭発表形式の研究集会であり、平成16年度は、東北大学、岩手大学、八戸工業大学、秋田大学、山形大学、東北学院大学において合計6回実施し、219回を数えている。平成16年度は計81件の発表があり、地域内の研究交流、学会の広報、若手会員の勧誘などの役割を果たした。また、30歳以下の発表者の中で特に優秀な発表を行った者に対して東北支部優秀発表奨励賞を授与しており、平成16年度は8名（うち3名は東北支部40周年記念学術講演会）が受賞した。

### 2. 東北支部40周年記念学術講演会の開催

東北支部の創設40周年を記念した学術講演会を12月22日～23日に日本大学工学部で開催した。（招待講演2件、一般講演54件）。

### 3. 講演会ほか各種行事の開催

本年度は5件の講演会を共催するとともに、1件の国際会議を共催した。

### 4. 役員会の開催

支部運営の主体である運営専門委員会を7回、役員・評議員・運営専門委員合同委員会を1回開催した。本年度は、特に、地域内交流の促進、東北支部40周年記念学術講演会に関連する企画などについて検討を行った。

### 5. 会員勧誘の強化

学会の広報活動を行うとともに、会員の勧誘を行ってきた。特に、研究集会における優秀発表奨励賞受賞者を研究奨励賞に推薦するなどの方策を通して、入会活動を積極的に進めた。

### 6. 研究集会・講演会等の開催回数

研究集会	6回
東北支部40周年記念学術講演会	1回
講演会（共催）	5回
国際会議（共催）	1回
総会	1回
運営専門委員会	7回
役員・評議員・運営専門委員合同委員会	1回

### 7. 東北支部優秀発表奨励賞8名

秋田敏宏、佐々木克浩、成田大気、王蕊、熊谷正朗

船本健一、坂本一典、辻田鉄平

## (13) 中部支部

平成16年度における中部支部では、7つの研究委員会と3つの地区研究委員会が研究会、セミナー、シンポジウム、講演会、ワーキング・セミナー、見学会などを企画し、今年度も活発な活動を行った。また、研究委員会と支部事業委員会との共催行事によりいくつかの規模の大きい講演会、シンポジウムなども企画された。また、事業委員会は支部賛助会員還元事業として、企業と大学の情報交換・相互理解を促進することを目的とするオープンラボを実施し、盛況のうちに終えた。これら以外でも特別講演会、講習会などが企画され、支部全体としても活発な活動が行われた。また、支部賞の選考も行われ、技術賞2件、奨励賞1件、および功労賞1件の受賞が確定した。さらに今年度は、研究委員会活動のさらなる活発化をはかるため、研究委員会の総数を増すことを検討し、その運営方法について議論し、事業費率の増大を図った。実施した事業を以下に示す。

総会	1回
役員会	4回
評議員会	1回
事業委員会	5回
支部賞表彰	1回
特別講演会	1回
学術講演会	1回
見学会	1回
講習会	1回
講演会	1回

研究会	28回
協賛行事	3回
支部賞受賞者	
技術賞：伊藤 博，高羽直樹，室崎 隆，安面隆史，近藤禎樹，藤井智章（株式会社デンソー） 大谷篤史，坂井田敦資，阿部吉次，石原康生（株式会社デンソー）	
奨励賞：菊植 亮（名古屋工業大学）	
功労賞：鈴木正之（名古屋大学名誉教授）	

#### (14) 北陸支部

平成16年度における北陸支部では、学術講演会を2回増やした。さらに、支部会員特に企業会員からの要望を尊重して、長期にわたる講習会・セミナーを1回増やし、積極的な活動を行った。支部主催・共催で実施した事業は以下の通りである。

1. 講演会	5回	
第1回（04.7.9 26名）	第2回（04.8.23 47名）	
第3回（04.10.22 23名）	第4回（04.11.16 42名）	
第5回（04.12.11）		
2. 特別講演会	1回	（04.1.23）
共催講演会	1回	（04.12.20）
後援講演会	1回	（04.11.4 37名）
3. 学術講演会（共催）	3回	
日本機械学会北陸信越支部 第41期総会・講演会		（04.3.16 320名）
平成16年度電気関係学会北陸支部連合大会（共催）		（04.9.17-18）
HART2004		（04.12.5-6）
4. 講習会・セミナー	2回	
ウェーブレット講習会		（04.8.28-04.12.4 11名）
ウィークエンドセミナー2004		（04.11.12-13 12名）
5. 見学会	2回	
富山県工業技術センター 生活工学研究所		（04.8.30 11名）
株式会社松浦機械製作所		（04.10.29 20名）
6. 総会	1回	
7. 幹事会	5回	
8. 幹事・評議員合同会議	1回	
9. 支部賞受賞者		
優秀論文発表賞：向井正和，河合康典，宮川智文		

#### (15) 関西支部

関西支部における平成16年度の事業活動は、講習会、見学会、学生連絡研究会の開催に加え、「安全・安心の科学研究会」を発足させ事業の拡大を図りつつある。例年実施しているシンポジウムは学生会員拡大を図るため、学生発表主体で平成17年3月に実施する予定で、今年度は実施にあたっての詳細検討を実施した。事業内容の詳細は次の通り。

1. 特別講演会	1回	（04.2.4）
2. 講習会	1回	（04.6.17）
3. 見学会	2回	（04.7.9, 04.11.5）
4. 研究会	2件	
5. 協賛事業	22件	
6. 支部総会	1回	（04.2.4）
7. 支部幹事会	6回	
8. 委員会	16回	



### (16) 中国支部

1. 支部定時総会を1月に開催し、平成15年度事業報告、平成15年度決算報告、平成16年度役員、平成16年度事業計画、平成16年度予算案の承認を得た。また、特別講演会(演題:「生理反応を用いたところの計測と制御」、講師:大阪工業大学 情報科学部情報メディア学科 教授 大須賀 美恵子 先生)を行った。
2. 役員会および拡大幹事会を4回開催し、支部運営の協議を行った。
3. 第13回計測自動制御学会中国支部学術講演会を平成16年11月20日(土)、21日(日)に鳥取大学湖山キャンパスにて開催した。講演件数は106件、参加者は約200名であった。また、特別講演(演題:「地震計測の現状」、講師:鳥取大学工学部 教授 西田 良平 先生)、チュートリアル講演(演題:「センシングシステム」講師:鳥取環境大学情報システム工学科教授 実森 彰郎 先生)を行った。
4. 計測制御シンポジウム2004を平成16年8月20日(金)に岡山大学創立50周年記念館で、題目:「ノウハウとは!」で開催した。特別講演(演題:「運転スキルの伝承とコオペレータ」、講師:岡山大学工学部 教授 五福 明夫 先生)、講演6件、パネルディスカッションを行った。
5. 会員への学術・技術情報の提供のために講演会(15回)、グループ研究会(13回)、講習会(3回)を開催した。

学術講演会	1回、
計測制御シンポジウム2004	1回、
講演会	15回、
グループ研究会	13回、
講習会	3回
6. 会議等の開催回数

総会	1回、
役員会	3回、
拡大幹事会	1回、
7. 支部賞受賞者

技術賞: 道家 久人(三菱化学(株))	
奨励賞: 坂野 盛彦(山口大学)、大宮 理恵(山口大学)、渡辺 昌志(広島大学)、	
福井 康仁(鳥取大学)、狩野 淳(岡山大学)	

### (17) 四国支部

四国支部の若年者会員または会員勧誘対象者を意識した講演会を企画、実施した。会員が広く活動範囲を得られるよう他学会、支部内の高専等との共催事業にも積極的に取り組んだ。また、支部運営および諸活動の内容の検討を始めた。この件は次年度への継続課題である。

以下に今年度の実施事業を報告する。

- |         |     |
|---------|-----|
| 1. 総会   | 1回  |
| 2. 役員会  | 1回  |
| 3. 講演会  | 11回 |
| 4. 共催事業 | 4回  |

### (18) 九州支部

九州・沖縄地区のSICE会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員等にとって魅力ある活動を目標に、以下の事業を展開した。

1. 研究活動の場と情報の提供  
特別講演会、研究会(SICE九州フォーラム)、講義会、学術講演会、講演会などを実施した。また、総会やWebを通して支部における活動の情報提供を行った。
2. 会員増加への取り組み  
学術講演会と同時に学生発表交流会を企画した。発表を通して学生間および一般・会員との交流を深めることを目的とし、学生に気楽に参加してもらうことで、SICEの魅力を生徒に伝える場を提供している。
3. 支部運営および事業企画・検討  
総会、評議員会、役員会、委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたり、これまでの活動内容の検討や改革、新企画

の発案などを行った。

#### 4. 実施事業

総会	1回	
役員会		4回
評議員会		3回
事業委員会	2回	
研究会(SICE九州フォーラム)		1回
学術講演会		1回
学生発表交流会		1回
講義会		1回
特別講演会		2回
講演会	13回	
見学会		1回
共催研究会		3回

#### 5. 支部奨励賞表彰

緒方 健人(九州工業大学), 松野 崇(九州大学),  
石井 慎也(大分大学), 石橋 孝昭(九州工業大学)

#### 事業

##### (1) 会誌「計測と制御」(Vol.43, No.1~No.12)を毎月発行

- 1月号 特集・小説・漫画・映画に登場した先端科学技術
  - 2月号 特集・ロボティックバーチャルシステム
  - 3月号 特集・社会に貢献する計測制御工学
  - 4月号 特集・音の計測と処理
  - 5月号 特集・ライフサイクルエンジニアリングと生産システム
  - 6月号 ミニ特集・情報通信と制御におけるリアルタイム技術
  - 7月号 ミニ特集・バイオメトリクスの新展開
  - 8月号 特別企画・創発夏の学校
  - 9月号 ミニ特集・モデル予測制御の産業応用への新展開
  - 10月号 特集・産業に役立つ技術評価とTLO
  - 11月号 特集・この“地球”をもっと知りたい-リモートセンシングへの期待-
  - 12月号 ミニ特集・エージェントベースアプローチ
- 総頁数 1,010 頁

##### (2) 論文集「計測自動制御学会論文集」(Vol.40, No.1~12)を毎月発行

総頁数 1,264 頁,  
掲載論文 125 件, ショート・ペーパー 20 件, 開発・技術ノート 1 件,  
投稿論文数 177 件, ショート・ペーパー 33 件, 開発・技術ノート 1 件, 討論 0 件,  
購読数 2,016 部

##### (3) 産業論文

産業論文累計 19 編, 開発・技ノート累計 3 件 を Web 上で公開

##### (4) 英語論文

第 3 巻 (12 件) を Web 上で公開

##### (5) 講演会

###### 1. 主催

- (7) SICE Annual Conference 2004 (04.8.4-6・北海道工業大学)  
(一般セッション 73 件, オーガナイズドセッション 40 件, 参加者 802 名)
- (4) SICE Week「出前講演会」 (04.8.3-6・北海道地区 6 高校, 4 社)  
(9) SICE テクノロジビジョン・ワークショップ (04.11.11-13・函南・27 名)
- (1) 第 3 回チュートリアル講演会 (04.12.15・東京・57 名)

## 2. 共催

- (7) 2004 年春季第 51 回応用物理学関係連合講演会 (04.3.28-31・東京)
- (4) ロボカップジャパンオープン 2004 大阪 (04.5.1-4・大阪)
- (9) OPC 技術セミナー2004 (04.5.24-28・東京, 横浜, 豊田, 京都)
- (1) 第 42 回原子力総合シンポジウム (04.5.27-28・東京)
- (7) 第 34 回安全工学シンポジウム (04.7.8-9・東京)
- (9) 第 23 回混相流シンポジウム (04.8.5-7・岡山)
- (4) 第 41 回理工学における同位元素・放射線研究発表会 (04.7.・東京)
- (7) 計測連合シンポジウム - 先端計測 2004 “計る・測る・量る” (04.9.3・宇都宮)
- (9) 平成 16 年度工学教育連合講演会 (04.9.4・東京)
- (1) 第 47 回自動制御連合講演会 (04.11.26-27・千葉)
- (9) 第 48 回宇宙科学連合講演会 (04.11.4-6・福井)
- (7) MOF2004(Manufacturing Open Forum 2004 Tokyo) (04.11.16-17・東京)
- (7) 第 8 回生産学術連合会議講演会 (04.12.13・東京)
- (9) 設計工学シンポジウム「関係性のデザイン：つくることから育てることへ」 (04.12.14-15・東京)

## (6) 部門大会 / 部門学術講演会

- (1) 第 4 回制御部門大会 (04.5.26-28・福岡・230 名)
- (2) 第 21 回センシングフォーラム (04.9.14-15・東京・169 名)
- (3) 産業応用部門大会 (04.10.27-29・東京・96 名)
- (4) システム・情報部門学術講演会(SSI2004) (04.11.18-20・浜松・106 名)
- (5) 第 5 回システムインテグレーション部門講演会(SI2004) (04.12.17-19・つくば・800 名)

## (7) 支部関係 / 支部学術講演会

- (1) 北海道支部  
学術講演会 1 回, 講演会 4 回, 特別講演会 1 回, 研究会 2 回, 協賛事業 2 回
- (2) 東北支部  
40 周年記念学術講演会 1 回, 講演会 5 回, 研究会 6 回, 共催国際会議 1 回
- (3) 中部支部  
学術講演会 1 回, 特別講演会 1 回, 講演会 1 回, 講習会 1 回, 研究会 26 回, 見学会 1 回, 協賛行事 3 回
- (4) 北陸支部  
講演会 5 回, 特別講演 1 回, セミナー 1 回, 共催・後援講演会 2 回, 共催学術講演会 3 回, 講習会・セミナー 2 回, 見学会 2 回
- (5) 関西支部  
特別講演会 1 回, 見学会 2 回, 研究会 2 回, 講習会 1 回
- (6) 中国支部  
学術講演会 1 回, シンポジウム 1 回, 講演会 15 回, 研究会 14 回, 講習会 3 回
- (7) 四国支部  
講演会 10 回, 研究会 1 回, 共催行事 1 回
- (8) 九州支部  
学術講演会 1 回, 講演会 7 回, 特別講演 2 回, 研究会 1 回, 共催研究会 3 回, 講義会 1 回, 学生発表交流会 1 回, 見学会 1 回

## (8) 講習会

- (1) SICE セミナー「制御のためのシステム同定」 (04.3.16-17・東京・46 名)
- (2) ネットワークセンシングシステム調査研究会 (04.4.8・東京・108 名)

- (3) 第4回制御部門ワークショップ (04.5.25・福岡・62名)
- (4) 高校生セミナー「制御～動きをデザインする科学技術～」 (04.5.29・福岡・67名)
- (5) 温度計測基礎講座 (04.6.4・東京・56名)
- (6) SICE セミナー「現代制御理論入門」 (04.9.13-14・東京・26名)
- (7) SICE セミナー「実践的な制御系設計」 (04.10.26・東京・53名)
- (8) SICE セミナー「実践的な制御理論」 (04.12.2-3・東京・29名)
- (9) 計測制御エンジニア講座 (04.12.16-17・東京・7名)

### (9) シンポジウム

- (1) 第16回自律分散システムシンポジウム (04.1.26-27・京都・116名)
- (2) 第4回適応学習制御シンポジウム (04.3.10-11・東京・55名)
- (3) 第31回知能システムシンポジウム (04.3.15-16・東京・117名)
- (4) デジタル地図シンポジウム (04.5.14・東京・138名)
- (5) 第10回創発システムシンポジウム (04.8.20-22・富山・101名)
- (6) 共創シンポジウム2004 (04.8.27-28・東京・103名)
- (7) 新しい制御と数学の接点を探る調査研究会シンポジウム (04.9.16・京都・19名)
- (8) 第21回誘導制御シンポジウム (04.10.21-22・東京・50名)
- (9) 第5回流体計測制御シンポジウム (04.10.27・東京・39名)
- (10) 第30回リモートセンシングシンポジウム (04.11.1-2・東京・77名)
- (11) 第19回生体・生理工学シンポジウム (04.11.1-3・大阪・231名)
- (12) 第9回パターン計測シンポジウム (04.11.5-6・長野・17名)
- (13) 第33回制御理論シンポジウム (04.11.10-12・静岡・153名)

### (10) 部門活動

1. 計測部門 運営委2回 部門大会1回
  - (ア) センシングフォーラム委員会 委3回
  - (イ) 温度計測部会 委4回, 部会企画行事5回
  - (ウ) 流体計測部会 部会企画行事3回,
  - (エ) 力学量計測部会 委4回, 部会企画行事3回, 共催行事3回
  - (オ) リモートセンシング部会 委7回, 部会企画行事4回
  - (カ) パターン計測部会 委2回, 部会企画行事4回
  - (キ) センシングフォトンクス部会 部会企画行事1回, 協賛行事4回
  - (ク) 先端電子計測部会 委4回, 部会企画行事2回
  - (ケ) ネットワークセンシングシステム調査研究会(公募) 委2回, 部会企画行事4回
2. 制御部門 運営委6回 研究会1回 部門大会1回 セミナー6回
  - (イ) 制御技術部会 部会企画行事1回
  - (ロ) 制御理論部会 委2回, 部会企画行事1回
  - (ハ) 力学系・生物系の本質から制御を考える調査研究会 研究会企画行事2回
  - (ニ) 新しい制御と数学の接点を探る調査研究会 研究会企画行事1回
  - (ホ) ユーザのための適応学習制御調査研究会 委1回, 部会企画行事5回
  - (ヘ) 移動体のアドバンス誘導制御調査研究会 研究会企画行事2回
  - (ニ) 制御と情報通信ネットワークに関する調査研究会 共催行事1回
  - (フ) 計測制御技術を応用したリスク工学調査研究会(公募) 委1回, 部会企画行事1回
  - (ロ) マルチレゾルブドシステム調査研究会 委2回
3. システム・情報部門 運営委3回 部門大会1回 研究会1回
  - (イ) システム工学部会 委2回, 部会企画行事4回
  - (ロ) マンマシンシステム部会 委1回, 部会企画行事4回
  - (ハ) 知能工学部会 委1回, 部会企画行事1回
  - (ニ) 生体・生理工学部会 委2回, 共催行事1回 部会企画行事4回
  - (ホ) 自律分散システム部会 委4回, 部会企画行事4回

- (k) ニューラルネットワーク部会 委2回, 部会企画行事5回, 協賛行事1回
- (l) 離散事象システム部会 委1回, 部会企画行事3回
- (ll) SMC 国内委員会 共催行事1回
- (c) 移動知実現のシステム原理とその工学的実現に関する調査研究会(公募) 委6回  
研究会企画行事10回, 協賛行事3回
- 4. システムインテグレーション部門 運営委7階, 部門大会1回, 部会企画行事1回  
共催行事1回
  - (7) メカトロニクスシステム部会 委1回, 部会企画行事2回, 共催行事1回
  - (A) 自動化システム部会 委3回, 部会企画行事1回, 共催行事1回
  - (ホ) ロボティクス部会 委1回, 部会企画行事1回, 共催行事1回
  - (マ) 福祉工学部会 委4回, 部会企画行事1回
  - (シ) VR工学部会 委2回, 部会企画行事2回
  - (A) レスキュー工学部会 部会企画行事1回, 共催行事2回
  - (X) ユニバーサルデザイン部会 共催行事1回
  - (E) 相互作用と賢さ部会 部会企画行事3回
  - (F) 共創システム部会 部会企画行事2回
  - (I) ロボット・セラピー部会 研究会企画行事10回, 共催行事1回
  - (E) 安全回復システム部会 委3回, 部会企画行事3回, 共催行事1回
  - (7) バイオシステム部会 委4回, 部会企画行事1回
  - (I) RTシステムインテグレーション部会
  - (ll) ソフトマテリアル機能応用調査研究会 部会企画行事3回
  - (b) 社会計測制御システム調査研究会(公募) 部会企画行事1回
- 5. 産業応用部門 運営委4回, 部門大会1回, SICE-JEMIMA 交流会1回
  - (H) 産業システム部会 委4回
  - (7) 計装技術交流部会 委11回, 部会企画行事5回
  - (7) 流体計測制御部会 委1回, 部会企画行事1回
  - (C) 計測・制御ネットワーク部会 委14回, 部会企画行事4回, 共催, 後援, 出展, 意見交換会各1回
- 6. 先端融合部門
  - (7) ライフサポート計測制御システム調査研究会(公募)
  - (I) SICE 領域技術教育における企画・設計能力開発と評価に関する調査研究会 委1回
  - (9) 人工生命システム調査研究会 委2回, 部会企画行事3回
  - (I) 次世代医療福祉システム調査研究会 部会企画行事3回
  - (d) バイオミメティックマシン調査研究会 委2回, 部会企画行事3回

#### (11) 国際会議 (共催)

- (1) 第9回人工生命とロボットに関する国際シンポジウム (AROB) (04.1.28-30・別府)
- (2) 第18回国際音響学会議 (04.4.4-9・京都)
- (3) 2004 IEEE International Symposium on Industrial Electronics (ISIE2004) (04.5.4-7・Ajaccio)
- (4) First International Workshop on Networked Sensing Systems (INSS2004) (04.6.22-23・東京)
- (5) 47th IEEE Midwest Symposium on Circuits and Systems (MWSCAS) (04.7.25-28・広島)
- (6) International Conference on Composites/Nano Engineering (ICCE-11) (04.8.8-14・South Carolina)
- (7) IFAC Workshop on Adaptation and Learning in Control and Signal Processing, and IFAC Workshop on Periodic Control Systems (04.8.30-9.1・横浜)
- (8) IEEE Conference on Control Applications, International Symposium on Intelligent Control, Computer Aided Control Systems Design (2004 CCA/ISIC/CACSD) (04.9.2-4・Taipei)
- (9) 2004 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robotics and Systems (IROS2004)(04.9.27-10.1・仙台)
- (10) 第4回先端メカトロニクス国際会議 (ICAM'04) (04.10.3-5・旭川)
- (11) 2004 国際シンポジウム「マイクロメカトロニクスとヒューマンサイエンス」(MHS2004)(04.10.31-11.1・名古屋)
- (12) The 30th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (IECON'04)(04.11.2-6・Busan)

(12) 出版

計測・制御テクノロジーシリーズを刊行中

(13) ハンドブック等(会員頒布)

頒布状況

- (1) 自動制御ハンドブック(基礎編)(オーム社より販売)
- (2) " (機器・応用編)(オーム社より販売)
- (3) 教育用ビデオ教材 初心者のための現代制御理論ビデオ講座
- (4) SICE-BASE 30
- (5) 学術用語集「計測工学編」(コロナ社より販売)

累計 664 セット  
累計 164 本

学会賞 平成 16 年度計測自動制御学会賞(敬称略)

(1) 功績賞

(該当なし)

(2) 論文賞 9 編 18 名

- 論文賞・蓮沼賞 : 藤井雄作,
- 論文賞 : 佐藤喜一,
- : 大塚敏之,
- : 山本直樹, 津村幸治,
- : 杉 正夫, 湯浅秀男, 新井民夫,
- : 近藤敏之, 伊藤宏司,
- : 高梨豪也, 三宅美博,
- : 稲葉 毅, 松尾芳樹,
- : 涌井徹也, 橋詰 匠, 西島剛志, 石井 実

(3) 技術賞 4 篇 26 名

- 技術賞・武田賞 : 日比野良一, 大澤正敬, 河野克己君, 伊藤寛,
- 技術賞・友田賞 : 石川正俊, 小室孝君, 石井抱, 吉田淳, 稲田喜昭, 小宮泰宏
- 技術賞 : 中谷英一, 長尾勝, 渡辺光, 橋本雅人, 臼井浩司, 青山浩二,
- : 出口祥啓, 野田松平, 福田憲弘, 土橋晋作, 窪田隆博,
- 篠田克彦, 田中隆一郎, 猪澤祥規, 吉良雅治, 森田昌敏

(4) 著述賞 2 編 1 社 1 名

- : (株)山武, 調節弁ハンドブック編集委員会
- : 木村英紀

(5) 新製品開発賞 2 社

- : 横河電機株式会社
- : 株式会社山武

(6) 教育貢献賞 1 件

- : 青島伸治

(7) 学術奨励賞

研究奨励賞 10 名

- : Izumi Nishidate, 佐々木克浩, 甲斐健也, 岡田康志, 村尾俊幸
- Fumihide Tanaka, 矢野武志, 昆陽雅司, 綿末太郎, 西川員史

技術奨励賞 3 名

- : Yohei Nagai, Takayuki Iwamoto, 土井智晴

(8) SICE Annual Conference Award

International Award 2 編 2 名

- : Jie Chen

: Hayato Sone  
Young Author's Award 1編 1名  
: Toni Bakhtiar

名誉会員 平成15年度名誉会員証贈呈 2名(敬称略)  
: 小野敏郎, 井上雄一郎

フェロー 平成15年度フェロー称号贈呈 1名(敬称略)  
: 大松 繁

#### SICE 認定計測制御エンジニア

計測制御エンジニア補 4名  
: 渡辺 学, 永山和郎, 長門達也, 高田哲也  
計測制御エンジニア 3名  
: 山中謙二, 枝窪 肇, 川畑洋一

#### 部門賞・支部賞

1. 計測部門  
研究・技術奨励賞 : 大谷幸三, 山浦佑樹, 山内豊彦, 大串浩司, 細井 聖
2. 制御部門  
パイオニア賞 : 児島 晃  
部門大会賞 : 忻 欣, 石川 将人
3. システム・情報部門  
優秀論文賞 : 鈴木達也, 早川聡一郎  
奨励賞 : 村田秀樹, 草道博美, 青井伸也
4. システムインテグレーション部門  
技術業績賞 : 株式会社東芝  
学術業績賞 : 該当なし  
奨励賞 : 安藤英由樹, 前田太郎, 塚越秀行, 田中崇裕, 北川 能  
功績賞 : 小菅一弘  
貢献賞 : 落合康住  
ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会賞  
: 高井朋幸, 桑田喜隆  
ロボカップレスキューロボットリーグ計測自動制御学会賞  
: 清水 優  
ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会国際賞  
: S.O.S., Amirkabir University of Technology, Iran  
ロボカップレスキューロボットリーグ計測自動制御学会国際賞  
:( 該当者なし )  
レスキューロボットコンテスト計測自動制御学会賞 (レスキュー工学大賞)  
: 黒ヒゲ師団チーム (高松工業高等専門学校)
5. 産業応用部門  
奨励賞 : 高柳洋一  
技術賞 : 伊勢居良仁, 焼田幸彦, 武衛康彦
6. 北海道支部  
(なし)
7. 東北支部

- 奨励賞 : 秋田敏宏, 佐々木克浩, 成田大気, 王蕊, 熊谷正朗,  
船本健一, 坂本一典, 辻田鉄平
8. 中部支部  
技術賞 : 伊藤 博, 高羽直樹, 室崎 隆, 安面隆史, 近藤禎樹, 藤井智章,  
大谷篤史, 坂井田敦資, 阿部吉次, 石原康生  
奨励賞 : 菊植 亮  
功労賞 : 鈴木正之
9. 北陸支部  
優秀論文発表賞 : 向井正和, 河合康典, 宮川智文
10. 関西支部  
(なし)
11. 中国支部  
技術賞 : 道家久人  
奨励賞 : 坂野盛彦, 大宮理恵, 渡辺真志, 福井康仁, 狩野 淳
12. 四国支部  
(なし)
13. 九州支部  
奨励賞 : 緒方健人, 松野 崇, 石井慎也, 石橋孝昭

## 会 議

1. 総 会 第 43 回定時総会 (04.2.23・東京大学山上会館)
2. 理事会 6 回, 拡大 1 回, 常務理事会 2 回, 特別常務理事会 1 回
3. 役員・評議員懇談会 1 回
4. 支部長懇談会 1 回, 連絡会 1 回
5. 支部協議会 1 回
6. 賛助会員懇談会 1 回
7. 学生会員懇談会 1 回
8. 関連団体懇談会 1 回
9. 海外参加者懇談会 1 回
10. 各種委員会
  - 企画委員会 (委員会 4 回, WG15 回),
  - 会員・広報委員会 (打合せ 3 回),
  - 学会賞委員会 (3 回),
  - 功績賞選考委員会
  - フェロー選考委員会 (書面審議 1 回),
  - 部門協議会 (8 回),
  - 国際委員会 (6 回),
  - SICE Annual Conference 2004 in Sapporo(実行委 2 回, 実務担当者会議 2 回,  
プログラム委 2 回, Conference Award 1 回),
  - SICE Annual Conference 2005 in Okayama (実行委 2 回, 準備会 1 回, 役員会 1 回,  
プログラム委員会 1 回),
  - IFAC 委員会 (1 回),
  - 事業委員会 (5 回, 自動制御連合講演会打合せ 2 回),
  - 教育・認定委員会 (5 回, 打合せ 2 回),
  - CPDWG (2 回, 打合せ 2 回)
  - 計測制御エンジニア WG (5 回, 打合せ 1 回)
  - 会誌編集委員会 (6 回, 特別 1 回),
  - 論文集委員会 (8 回),
  - 産業論文委員会 (2 回, 打合せ 1 回)



総務委員会 (9回) ,  
財務委員会  
IT委員会 (イベントDB WG 1回)  
役員候補者推薦委員会 (2回) ,  
科学研究費審査委員情報提供委員会 (1回)  
日本学会議会員候補者情報提供委員会 (1回)

#### 11. 支部関係

- (1) 北海道支部 総会 1回, 幹事会 3回, 評議員会 3回
- (2) 東北支部 総会 1回, 運営専門委員会 7回, 役員評議員合同委員会 1回
- (3) 中部支部 総会 1回, 役員会 4回, 評議員会 1回, 事業委員会 5回
- (4) 北陸支部 総会 1回, 幹事会 5回, 幹事・評議員合同会議 1回
- (5) 関西支部 総会 1回, 幹事会 6回, 拡大幹事会 1回
- (6) 中国支部 総会 1回, 役員会 3回, 拡大幹事会 1回
- (7) 四国支部 総会 1回, 役員会 1回,
- (8) 九州支部 総会 1回, 役員会 4回, 評議員会 4回, 事業委員会 2回

#### その他

##### 1. 国際関係

- (1) 国際計測連合(IMEKO)への協力
- (2) 国際自動制御連盟(IFAC)への協力
- (3) APFICS への協力
- (4) ISA, CIS, IEEE, ICASE, CAC, CAA との交流
- (5) 来日外国学識者との交流
- (6) 海外技術調査派遣

##### 2. 国内関係

- (1) 日本工学会等関連学協会への協力(事業協賛, 後援など)
- (2) システム制御情報学会との事業協力
- (3) JABEE への協力
- (4) 横幹連合への協力

## 平成 16 年度収支計算書総括表

(平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで)

(単位：円)

科目	部門 計測自動制御 学会総合計	本部会計	部門合計	支部合計	横断型会計	内部取引消去
収入の部						
1. 基本財産運用収入	11,215	11,215	0	0	0	0
2. 会費収入	100,198,200	100,198,200	0	0	0	0
3. 事業収入	119,675,108	74,961,231	35,343,341	4,427,536	4,943,000	0
4. 寄付金収入	964,506	0	0	964,506	0	0
5. 雑収入	7,419,848	7,139,508	185,137	62,782	32,421	0
6. 固定資産売却収入	0	0	0	0	0	0
7. 基金特定預金 取崩収入	10,356,193	6,557,387	3,241,099	557,707	0	0
8. 繰入金収入	1,803,789	8,590,633	10,020,395	15,134,065	373,728	32,315,032
当期収入合計(A)	240,428,859	197,458,174	48,789,972	21,146,596	5,349,149	32,315,032
前期繰越収支差額	71,482,286	49,573,035	11,586,557	9,073,692	1,249,002	0
収入合計(B)	311,911,145	247,031,209	60,376,529	30,220,288	6,598,151	32,315,032
支出の部						
1. 事業費	137,446,983	87,555,355	33,013,268	11,727,809	5,150,551	0
2. 管理費	88,748,252	79,461,514	2,438,146	6,848,592	0	0
3. 固定資産取得支出	1,194,280	1,194,280	0	0	0	0
4. 基本財産繰入支出	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0
5. 基金特定預金支出	25,702,986	7,395,824	11,002,921	7,304,241	0	0
6. 繰入金支出	0	25,528,188	4,998,885	340,359	1,447,600	32,315,032
7. 予備費	0	0	0	0	0	0
当期支出合計(C)	254,092,501	202,135,161	51,453,220	26,221,001	6,598,151	32,315,032
当期収支差額 (A)-(C)	13,663,642	4,676,987	2,663,248	5,074,405	1,249,002	0
次期繰越収支差額 (B)-(C)	57,818,644	44,896,048	8,923,309	3,999,287	0	0

## 平成 16 年度正味財産増減計算書総括表

(平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで)

(単位: 円)

科目	部門	計測自動制御学会総合計	本部会計	部門合計	支部合計	横断型会計
増加の部						
1. 資産増加額						
資産増加額		27,897,266	9,590,104	11,002,921	7,304,241	0
2. 負債減少額						
負債減少額		587,103	587,103	0	0	0
増加の部合計		28,484,369	10,177,207	11,002,921	7,304,241	0
減少の部						
1. 資産減少額						
当期収支差額		13,663,642	4,676,987	2,663,248	5,074,405	1,249,002
資産減少額		28,009,857	15,154,533	5,904,347	5,701,975	1,249,002
2. 負債増加額						
負債増加額		19,196	19,196	0	0	0
減少の部合計		28,029,053	15,173,729	5,904,347	5,701,975	1,249,002
当期正味財産増加額		455,316	4,996,522	5,098,574	1,602,266	1,249,002
前期繰越正味財産額		326,827,386	267,323,813	28,770,812	29,483,759	1,249,002
期末正味財産合計額		327,282,702	262,327,291	33,869,386	31,086,025	0

## 平成 16 年度貸借対照表総括表

(平成 16 年 12 月 31 日現在)

(単位:円)

部門 科目	計測自動制御学会総合計	本部会計	部門合計	支部合計	横断型会計
資産の部					
1. 流動資産					
流動資産合計	94,584,337	69,914,640	20,320,043	4,349,654	0
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産合計	17,000,000	17,000,000	0	0	0
(2) その他の固定資産					
その他の固定資産合計	290,915,282	238,882,467	24,946,077	27,086,738	0
固定資産合計	307,915,282	255,882,467	24,946,077	27,086,738	0
資産合計	402,499,619	325,797,107	45,266,120	31,436,392	0
負債の部					
1. 流動負債					
流動負債合計	36,765,693	25,018,592	11,396,734	350,367	0
2. 固定負債					
固定負債合計	38,451,224	38,451,224	0	0	0
負債合計	75,216,917	63,469,816	11,396,734	350,367	0
正味財産の部					
正味財産	327,282,702	262,327,291	33,869,386	31,086,025	0
負債および正味財産合計	402,499,619	325,797,107	45,266,120	31,436,392	0

# 平成 16 年度財産目録総括表

平成 16 年 12 月 31 日

(単位：円)

科 目	金 額
・ 資産の部	
1. 流動資産	
現金 現金手許残高	1,300,062
普通預金 UFJ 銀行本郷支店	3,418,887
"    住友信託銀行東京営業部	9,799,683
"    "	3,991,395
"    "	2,866,584
"    みずほ銀行本郷支店	21,984,141
"    "	38,952
郵便振替貯金 00160-9-127863	2,131,259
普通預金 みずほ銀行 本郷支店	2,856,588
"    三井住友銀行 小石川支店	10,963,451
"    常陽銀行 研究学園都市支店	2,608,139
郵便振替貯金 00130-7-581382	669,730
普通預金 みずほ銀行 札幌支店	351,886
"    七十七銀行 仙台本店	324,727
"    三井住友銀行 本山支店	350,559
"    新生銀行 リテール事業部	254,726
"    北國銀行 太閤山出張所	283,015
"    みずほ銀行 堂島支店	541,639
"    山陰合同銀行 湖山支店	767,726
"    四国銀行 山田支店	242,293
"    佐賀銀行 本庄支店	290,316
未 収 金	26,018,733
(会費, 論文集代, 会誌別刷料, 論文別刷料, 部門支部行事参加費, 交付金等)	
立 替 金 (IROS2004 資金貸与)	300,000
仮 払 金	2,229,846
(SICE2005, 源泉徴収税立替分, 次年度事業費仮払い分等)	
流動資産合計	94,584,337
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
基本 金	17,000,000
(住友信託銀行東京営業部 信託預金, 定期預金)	
基本財産合計	17,000,000
(2) その他の固定資産	
建 物	55,519,334
什器備品	2,898,127
退職給与引当預金	33,451,224
(住友信託銀行東京営業部 信託預金, 定期預金, 普通預金)	
記念事業引当預金	15,269,415
(住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, 東京三菱銀行春日町支店 定期預金)	

IT 化推進引当預金 做信銀東京部 定期預金, 普通預金, みずほ銀行本郷支店 定期預金, 普通預金	39,922,659
事務所営繕引当預金 (住友信託銀行東京営業部 普通預金)	3,370,082
出版基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, みずほ銀行本郷支店 定期預金, 普通預金)	19,025,529
国際交流振興基金 做信銀東京部 信託, 定期預金, 普通預金, 三井住友銀行 定期預金, 普通預金	27,980,149
産学協同事業推進基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金)	10,037,045
蓮沼賞基金 (住友信託銀行東京営業部 普通預金)	1,910,071
友田賞基金 (住友信託銀行東京営業部 普通預金)	1,758,530
武田賞基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金)	21,860,018
預り保証金引当預金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 信託預金)	5,000,000
横断型基幹科学技術振興基金 (みずほ銀行本郷支店 普通預金)	1,000,000
システム・情報部門 FAN シンポジウム基金 (東京三菱銀行春日町支店 定期預金)	556,450
システム・情報部門 SMC 国際交流基金 (東京三菱銀行春日町支店 普通預金)	727,751
制御部門未来開拓基金 (東京三菱銀行春日町支店 普通預金)	7,178,782
システム・情報部門自律分散システム部会シンポジウム基金 (みずほ銀行本郷支店 定期預金)	300,664
計測部門調査研究会振興基金 (みずほ銀行本郷支店 定期預金)	2,180,626
SI 部門インテグレーション基盤開拓基金 (みずほ銀行本郷支店 定期預金)	8,001,804
システム・情報部門基盤創成基金 (みずほ銀行本郷支店 普通預金)	4,000,000
産業振興活動支援基金 (みずほ銀行本郷支店 普通預金)	2,000,000
学術活動推進基金 (北洋銀行 北七条支店 普通預金)	1,705,132
記念事業基金 (七十七銀行 八木山支店 普通預金)	109,007
中部支部記念事業基金 (三井住友銀行 本山支店 定期預金)	2,550,966
中部支部支部賞事業基金 (三井住友銀行 本山支店 定期預金)	1,683,659
北陸支部学術活動推進基金 (北陸銀行 野々市支店 普通預金)	3,800,015
記念事業基金	8,610,310

(りそな銀行 梅田支店 普通預金)			
学術講演会振興基金	2,405,000		
(定額郵便貯金)			
産学交流振興基金	2,845,000		
(郵便貯金)			
講演会基金	1,250,008		
(四国銀行 山田支店 普通預金)			
九州支部奨励賞基金	807,868		
(郵便貯金)			
九州支部学術活動推進基金	1,200,057		
(郵便貯金)			
その他の固定資産合計	290,915,282		
固定資産合計		307,915,282	
資産合計			402,499,619
負債の部			
1. 流動負債			
未払金	22,642,737		
(貸・譲集11.12月号 部門・支事業費、一般会費入金、消費借当額等)			
前受金	2,563,825		
(17年度会費・論文集代予納分、次年度事業参加費等)			
預り金	8,803,522		
(社会保険料・源泉徴収税預り分、IFAC口座、連合講演会口座等)			
仮受金(返金、保留分等)	2,755,609		
流動負債合計		36,765,693	
2. 固定負債			
退職給与引当金	33,451,224		
預り保証金(広告料保証金)	5,000,000		
固定負債合計		38,451,224	
負債合計			75,216,917
正味財産			327,282,702

## 平成 16 年度支部収支計算書総括表

(平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで)

(単位：円)

部門 科目	支 部 合 計	北海道支部	東北支部	中部支部	北陸支部	関西支部	中国支部	四国支部	九州支部
収入の部									
1. 基本財産運用 収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 会費収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. 事業収入	4,427,536	499,500	0	633,292	5,000	489,004	1,415,240	0	1,385,500
4. 寄付金収入	964,506	0	0	0	0	0	0	0	964,506
5. 雑収入	62,782	10	8	1,716	45,024	255	15,622	27	120
6. 固定資産売却 収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 基金特定預金 取崩収入	557,707	0	300,000	100,590	0	420	0	0	156,697
8. 繰入金収入	15,134,065	1,713,015	1,087,000	3,574,100	803,200	3,464,300	1,701,000	749,200	2,042,250
当期収入合計(A)	21,146,596	2,212,525	1,387,008	4,309,698	853,224	3,953,979	3,131,862	749,227	4,549,073
前期繰越収支差額	9,073,692	383,756	267,745	1,386,483	3,214,946	671,979	1,568,897	705,777	874,109
収入合計(B)	30,220,288	2,596,281	1,654,753	5,696,181	4,068,170	4,625,958	4,700,759	1,455,004	5,423,182
支出の部									
1. 事業費	11,727,809	966,374	720,000	2,966,628	675,053	1,616,246	2,062,030	476,470	2,245,008
2. 管理費	6,848,592	245,993	605,840	1,320,815	310,093	2,381,403	797,518	186,233	1,000,697
3. 固定資産取得 支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 基本財産繰入 支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 基金特定預金 支出	7,304,241	1,021,431	4	700,607	2,800,009	252	1,067,324	550,008	1,164,606
6. 繰入金支出	340,359	9,990	0	12,687	1,000	9,780	150,032	43,258	113,612
7. 予備費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期支出合計(C)	26,221,001	2,243,788	1,325,844	5,000,737	3,786,155	4,007,681	4,076,904	1,255,969	4,523,923
当期収支差額 (A)-(C)	5,074,405	31,263	61,164	691,039	2,932,931	53,702	945,042	506,742	25,150
次期繰越収支差額 (B)-(C)	3,999,287	352,493	328,909	695,444	282,015	618,277	623,855	199,035	899,259



## 平成 16 年度支部正味財産増減計算書総括表

(平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで)

(単位：円)

部門 科目	支 部 合 計	北海道支部	東北支部	中部支部	北陸支部	関西支部	中国支部	四国支部	九州支部
増加の部									
1. 資産増加額									
当期収支差額	0	0	61,164	0	0	0	0	0	25,150
資産増加額	7,304,241	1,021,431	61,168	700,607	2,800,009	252	1,067,324	550,008	1,189,756
2. 負債減少額									
負債減少額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
増加の部合計	7,304,241	1,021,431	61,168	700,607	2,800,009	252	1,067,324	550,008	1,189,756
減少の部									
1. 資産減少額									
当期収支差額	5,074,405	31,263	0	691,039	2,932,931	53,702	945,042	506,742	0
資産減少額	5,701,975	57,356	343,770	791,629	2,932,931	54,122	945,042	506,742	156,697
2. 負債増加額									
負債増加額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
減少の部合計	5,701,975	57,356	343,770	791,629	2,932,931	54,122	945,042	506,742	156,697
当期正味財産増加額	1,602,266	964,075	282,602	91,022	132,922	53,870	122,282	43,266	1,033,059
前期繰越正味財産額	29,483,759	1,127,031	806,753	5,021,091	4,214,952	9,282,457	5,751,573	1,405,777	1,874,125
期末正味財産合計額	31,086,025	2,091,106	524,151	4,930,069	4,082,030	9,228,587	5,873,855	1,449,043	2,907,184

## 平成 16 年度支部貸借対照表総括表

(平成 16 年 12 月 31 日現在)

(単位:円)

部門 科目	支 部 合 計	北海道支部	東北支部	中部支部	北陸支部	関西支部	中国支部	四国支部	九州支部
資産の部									
1. 流動資産									
流動資産合計	4,349,654	352,493	328,909	708,131	283,015	648,055	773,887	242,293	1,012,871
2. 固定資産									
(1) 基本財産									
基本財産合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) その他の固定資産									
合計	27,086,738	1,738,613	195,242	4,234,625	3,800,015	8,610,310	5,250,000	1,250,008	2,007,925
固定資産合計	27,086,738	1,738,613	195,242	4,234,625	3,800,015	8,610,310	5,250,000	1,250,008	2,007,925
資産合計	31,436,392	2,091,106	524,151	4,942,756	4,083,030	9,258,365	6,023,887	1,492,301	3,020,796
負債の部									
1. 流動負債									
流動負債合計	350,367	0	0	12,687	1,000	29,778	150,032	43,258	113,612
2. 固定負債									
固定負債合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
負債合計	350,367	0	0	12,687	1,000	29,778	150,032	43,258	113,612
正味財産の部									
正味財産	31,086,025	2,091,106	524,151	4,930,069	4,082,030	9,228,587	5,873,855	1,449,043	2,907,184
負債および正味財産合計	31,436,392	2,091,106	524,151	4,942,756	4,083,030	9,258,365	6,023,887	1,492,301	3,020,796